

平成21年度 学校自己評価システムシート (埼玉平成中学校)

目指す学校像	創設者山口茂先生の唱えた「為すことによって学ぶ」の建学の精神のもと、「創造・自律・親切」を校訓として、心豊かで国際感覚を身につけた人材、また多くの体験を通して、真の学力とたくましさをも身につけた生徒を育成することを目標とし、個々の能力を最大限に伸ばす、中高一貫ならではのゆとりある教育機関を目指す。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> さらなる「学力の向上」を目指すための新しい教育体制への万全の準備を図る。 自主的に、安全に、安心して充実した毎日を送れる学校環境を作る。 将来の夢を構築するためのキャリア教育を行い、健全な職業観を育む。 中高一貫校としての六年教育の価値をますます高めるための教育環境整備に取り組む。
------	--

達成度	
A	ほぼ達成 (8割以上)
B	概ね達成 (6割以上)
C	変化の兆し (4割以上)
D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者	3名
事務局(教職員)	3名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (3 月 2 5 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 2 5 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	ここ数年来取り組んできた少人数制による理想的な教育環境と基礎基本の徹底が、進学面でかなりの成果をあげ、本校の評価につながったと言える。今後はさらなる学力向上に努めることが学校発展に不可欠である。そこで、平成22年度より入試改革、学校改革を行い、教育体制を「S選抜クラス」と今までの一般クラスを「A進学クラス」に改組することになった。今年度はその準備を万端にすべく中高二で「プロジェクトチーム」を設置する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の満足度を高める授業力の向上 学習の定着を図る カリキュラムの検討 プロジェクトチームでの検討(ネクスト・ステージ・プロジェクト=NSP) 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業の実施 週末課題と翌週の確認テストの実施 フォローアップ授業 新指導要領の研究 新設の「S選抜クラス」の具体的指導内容の検討 中高各教科代表による検討 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善が図られたか 生徒の学力定着が図られたか 生徒の学力が引き上げられたか 教育課程の改善と移行措置は検討されたか 6年後の実績をあげるための具体的方策は立案されたか 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、積極的に取り組んだ。授業後の研究討議を熱心に行い、各自の授業改善に取り組んだ。 システム化したことにより、年間を通して教科の進度に合わせた学力の定着が図られた。 個別指導により、学力の改善が見られた。 研修会への参加を含め、教科会を中心に全職員で研究した。 月に1回ペースでの会議と各教科での検討を重ね、しっかりと数値目標と具体的指導内容が計画された。 	<ul style="list-style-type: none"> B A A A 	<ul style="list-style-type: none"> 教科を中心とした中高合同の研究授業を行い、進度に応じた授業研究をする。 各学期毎から、年間を通した予定表を作成する。 教科外の教員の講座への参加、協力 新教育課程の本格的導入に当たっての最終点検 「S選抜クラス」の発足による具体的経過の検証
2	1クラス25人を基本とした少人数教育のもと、一人ひとり面談見よく丁寧に指導をしている。穏やかで素直な生徒が多いが、ともすると他に頼る傾向が強く、たくましさや自主性に欠ける面もある。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の徹底 生徒の自主性を伸ばす 安心安全な学校環境を作る 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた細やかな指導 各学校行事の充実 部活動、生徒会活動の充実 校内交通安全の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 細やかな指導が日々行われたか 生徒が主体性を発揮し、各行事に意欲的に取り組むことができたか 生徒が自主的に活動し、成果を上げられたか 交通安全のための施設が充実したか 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣、服装などは概ね良好である。 各行事とも生徒が主体的に参加し、本校らしい伝統行事として実施できた。 各部とも充実した活動をしている。特に書道部は各種展覧会で上位の入選を果たした。 保護者の送迎等の際の一方通行が不徹底であった。 	<ul style="list-style-type: none"> A A B 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の共通理解に基づくきめ細やかな指導の充実。 本校の伝統行事のますますの質的な向上 学習と部活動のさらなる両立 校内交通安全のための標識整備
3	生徒の目標は、中高6年後の大学入試に偏りがちである。その先の職業選択はもとより自己の将来設計をしっかりと考えさせることが重要である。	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリアデザイン」を意識した指導の充実を図る。 新しい業者の模擬試験の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の将来設計を考えさせられたか データを積極的に活用できたか 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育については組織的な取り組みができなかった。 新しい模擬試験でのデータが活用でき、今後の分析力の強化に役立った。 	<ul style="list-style-type: none"> B 	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリアデザイン」のための講演会、企業見学の実施 各種データのより積極的な活用
4	本校の特長を生かし、生徒の能力を最大限に伸ばさせるためには、今以上に中高連結した効率的な六カ年一貫の教育体制が必要不可欠である。	<ul style="list-style-type: none"> 中高連結した効率的な六カ年一貫の教育体制の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 教科間の連携を密にし、学力の向上を図る。 年間行事の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 中高連携が強化されたか 中高合同行事や六年教育の特色ある行事ができたか 	<ul style="list-style-type: none"> 1でのプロジェクトチームでの検討により、中高の教科間での連携が強まった。 中高合同職員朝礼、職員会議等の検討がなされた。 	<ul style="list-style-type: none"> B 	<ul style="list-style-type: none"> 中高合同の研究授業を行い、進度に応じた授業研究を行う。 模擬試験等のデータの中高共有

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成22年3月25日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> これからも生徒がやる気を起こす授業、ほめることを全面に出した授業を展開して欲しい。 研究授業は授業の質を高めるため今後も行なって欲しい。 各学年の学力レベルを定着させたい。 中高一貫校特有の中だるみを防止して欲しい。 学力の下位層を固定化させない努力が必要である。 「S選抜クラス」の計画も順調である。今後もこのクラスの計画の検証や進学指導の中心的な役割を担って欲しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> あいさつの声が小さい生徒がいる。野球部のような元気な声であいさつをさせたい。 卒業式は大変厳粛な中、感動的で素晴らしかった。 全生徒が学校行事に全力で取り組み、年々質の向上が見られる。 保護者の送迎車の校内徐行の徹底と一方通行を厳守したい。 卒業生、保護者に協力してもらい、各講演によって、大学学部選びや職業選択の一助として欲しい。 種々の模擬試験に対し、試験なれをして欲しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫の成果をあげるには、高等部の教員にもより以上に中学の教育に関心を持ってもらうことである。 中高の生徒の縦割りによって研究をするなど、より高度なものを外に発進する努力をして欲しい。 	